



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10  
TEL<058>244-0150 FAX 244-0151  
ホームページ <http://www.ktroad.ne.jp/~gikyof/>

幼いころ、バイオリンを習っている友達に、「かっこいいな」と思いました。両親に頼んで私も習い始めましたが、先生の厳しかったこと。「姿勢が悪い」「楽器の持ち方が直らない」。しかられ続けて嫌になり、初歩でやめてしまいました。私の挫折の始まりです。



バイオリンへのあこがれは、信州の叔母3人が弾いていた影響もありそうです。習いご程度腕前でも、裕福でもない山国の家庭で姉妹がバイオリンを学ぶのは、その時代には珍しかったことでしょう。小さな私は母親の里帰りについて行くたび、独身だった叔母たちの

そのころ、ソ連の音楽家の動向がしばしば新聞で報道されました。音楽家の人権にかかわる内容でした。チェロのロストロポーヴィチ、ピアノのリヒテル、バイオリンのオイストラフが1969年、カラヤン指揮のベルリンフィルとベートーベンの三重協奏曲を録音し、このし

Pが日本でも爆発的に売れた後、オイストラフが74年、経緯不明で突然亡くなったのに驚きました。亡命前のロストロポーヴィチの安全を守るため、国際人権団体やバーンスタインが声明を出したりしました。「鉄のカーテン」が厚く、ソ連の圧政を告発した作家ソルジェニーツィンの「収容所群島」が話題になった時代です。ロストロポーヴィチがソルジェニーツィンを擁護し、それが自身の危機につながったことは、今ならネット検索で分かります。しかし当時は情報が少なく、「素晴らしい音楽家が、政治のために危機にさらされている」「音楽は国境を超越するのに、音楽家は自由ではないのか」と、私には胸騒ぎだけが続きました。

でも、クラシック音楽を聴くのは当時から好きのままです。十代ではラジオの音楽番組に聴き入りました。小遣いをため、ムラビンスキーとレニングラードフィルのLPレコードを買って宝物にしました。演奏会のチケットを買う余裕はなく、級友がレニングラードフィルの来日公演に行った際には、心の底から嫉妬しました。

その後も89年のベルリンの壁崩壊に伴うコンサート、西側に亡命したクレーリックがチェコスロバキア(当時)の民主化後、90年のプラハの春音楽祭でチェコフィルを指揮したコンサートなど、音楽が歴史の象徴になる事件が相次ぎました。

何をしたか」に興味を持ちました。著名な演奏家たちがナチスをはじめとする暴政に迎合したり、命をかけて反発したり、耐え抜いたりしたことを知りました。いずれもLPのジャケットに写真が載っている人たちなので、同時代人と感じました。「新聞記者になりたい」と考えたのも、こんな傾向が影響したようです。

私の音楽への接し方は偏向してしまいましたが、音楽家も人間である以上、社会的存在です。オーケストラにも、社会の財物という側面があるでしょう。純粋に音楽を追求することでも人々と苦難を分かち合い、人々を励まし続けるオーケストラ。こうであれば素晴らしいと思います。その意味でも、多くの人のご尽力で長い歴史を刻む岐阜県交響楽団は「住民と共にあるオーケストラ」と感じます。「岐響がある」ということはオーケストラの当事者が考える以上に、社会にとつて大きなことだと思っています。

(中日新聞岐阜支社長)

「人々と共にあるオーケストラ」

公益社団法人 岐阜県交響楽団  
理事 竹花 孝則

# 高谷光信先生 インタビュー

ウクライナでも活躍されている高谷先生ですが、高谷先生とウクライナ、ロシア音楽、またはラフマニノフの音楽との関わりについて教えてください。

私は幸運にもウクライナ・キエフ国立チャイコフスキー音楽院指揮科で本格的に指揮の勉強する事ができました。モスクワにもチャイコフスキー音楽院というのがありますが、このキエフ(ウクライナ)のチャイコフスキー音楽院から分派されたものです。ラフマニノフはキエフ音楽院で学長を務めていました。ですからレッスンにもラフマニノフの作品がたくさん取り上げられました。今回のシンフォニーの2番も勿論のこと、1番、3番も何回も勉強する機会がありました。ピアノコンチェルトにおいては、2番は有名ですが、3番もまた名曲ですし、あまり知られていない1番も、ウクライナでは割と盛んに演奏されています。

関わりということでお尋ねいたしましたが、日本人としてロシア・ウクライナの作品に向かう時は、「ロシア正教」というものを意識しなければなりません。ラフマニノフにおいて絶対的に避けられないのは、教会の大きな「鐘の音」と言われています。その音は、ロシア・ウクライナ人の精神的支柱です。なぜならその鐘の音は既に彼らの生活の一部になっているからです。またお祈りや礼拝というものがあります。そのような日常の風景からラフマニノフは音楽の発想を得ていたのではないかと感じます。

現地でロシア正教の教会に行き、彼らがどういう生活を営んでいるのかを近くで見聞きする中で、感じできたことは大きいと思います。今回はその魅力的なラフマニノフが、プログラムの中で大きな位置を占めています。

ラフマニノフの圧倒的な魅力は、

メロディーです。メロディーの美しさという意味ではチャイコフスキーをも凌ぐ才能を持っていると思います。それは細く長く、ずつと解決せず、続く「連続メロディー」です。出口のない迷路、と形容した指揮者もいましたが、それが非常に心に浸透してきます。先ほども言いましたがやはりロシア正教の長いお祈りのシーンというものに繋がると思っています。しかし音楽自体が宗教曲というわけではなく、聴き手にわかりやすく、愛情に溢れたものとして受け止める事ができます。

シンフォニーにおいてもコンチェルトにおいても、素晴らしい旋律を持つていますが、旋律の力、弦楽器群のテクニク、管楽器群の圧倒的な力、輝きを持ったブラス、それから木管楽器の色彩感、そういうものが1つになり、次第に明るい「音」に向かつていく作曲家です。

高谷先生が音楽監督を務めておられる、チェルニーゴフ・フィルとはどのようなオーケストラですか？

チェルニーゴフ・フィルのあるチェルニーゴフ市というのは、ウクライ

ナの首都、キエフからだいたい200キロほど北西にある町です。人口30万人ほどの中規模都市のような感じですね。その中心には劇場があり、そこが町の音楽の中心になっています。劇場は200年ほど前からあり、そこで最初はアンサンブルから始まり、脈々と受け継がれてオーケストラになった歴史があります。このオーケストラの役割は、演奏会や音楽祭やコンクールというのがあります。もう1つの役割としては、音楽院の学生たちが卒業した後、このオーケストラで経験できる場を提供するという受け皿としての役割をもっています。

岐響にもジュニアオーケストラがありますね。同じようにアカデミーオーケストラの要素もありますので、何人か若者たちがインターンのように入ってきて、定期演奏会と一緒に入って、経験させていくような教育プログラムも行っていきます。

今回コンチェルトを弾いて下さるオニシチェンコさんをご紹介して下さい。

彼が17才の時に初めて出合いま

した。私も当時はまだ客員指揮者でした。出会いはもう13年前になりました。私も彼もまだ若くて駆け出しでした。初めて共演した時は、チャイコフスキーのピアノコンチェルトを演奏しました。彼は身長が2mほどと高く、卓越した技術を持ち、また手が非常に大きくて、凄く大きな音が鳴るので驚いた記憶があります。コンサートも成功に終わり、その後、お互いにプロの道に進んで行こうと約束し友達になりました。彼はその後ホロヴィッツ国際コンクールで第1位、チャイコフスキー・コンクール第5位(最年少受賞)、等の多数のコンクールで成績を残しています。日本には今回で3回目の来日になりますので、期待して下さい。

先生が今回、音楽を作る上で、大切になさっていることはどのようなことですか？

指揮者として絶対にこだわりたいのは、ラフマニノフが何を思って演奏して欲しいのか、何を思って作品を書いたのか、に尽きると思います。そして全体を通しては、やはり

ロシア正教というものが根底にあります。平和の祈りや、世界で起きている紛争等に疑問を呈したり、音楽に出来ることは何なのかを常に考えています。これはラフマニノフのみならず、多くの作曲家も考えていました。だから作曲家というのは音を通してメッセージを投げかけているのだと思います。またラフマニノフ本人は作曲家でありながら名ピアニストでもありましたから、彼が世界へ飛び立って、ロシア人として生きた時と、亡命した時、というようにいろんな人生があった中で、やはり自分の意志として強い使命感みたいなのがあったのではないのでしょうか。

当時の音楽がなぜ今も多くの人々の心を掴むのかというと、時代がこれだけ時を超えても、未だに様々な争いがあるのです。そういう意味では、当時と何も変わっていないのです。私たちは真摯に反省をしなければなりません。僕たち音楽家は「音に出来ること」を考えなければなりません。人の心を豊かにし、慰め、または励まし、そういう音楽を描いていることが必要だと思えます。これにはプロとアマの境界線はないのです。



大変ご多忙な先生ですが、他に興味を持たれていることはございますか？

いろいろな外国語に興味があります。私はロシア語を話せますが、ロシア語以外の言葉を話せるようになりたいと思っています。時間的に勉強する時間がないのが現状です。あと、いろんな国へ行ってみてみたいです。フィンランドにも行ってみたいですね。フィンランドにも行ってみたいですね。もし自由な時間が出来たら、海外に行つて作曲家の家なども巡つてみたいなど、そう思っています。

最後に、岐阜県交響楽団へ一言お願いいたします。

もう本当に10年以上のお付き合いになります。公演回数ももうかれこれ、10回になりますね。毎回皆様が私に期待してくださることを凄く嬉しく思います。それに応えられるように精一杯いろんな音楽を持ってこれるように努めようと思っています。

岐響の特徴は「愛情のある音色を持った調和のとれたオーケストラ」だと思っています。これからも岐阜が必要とされるオケであつて欲しいです。そしてそれを担う凄く大切なお役目をお持ちだと思うので、文化活動と子供たちの音楽育成にご尽力いただきたいと思います。

この間のサラマンカホールでの合唱演奏会も素晴らしかったです。ご縁はこれからも長く続いていくことと思えますので、これからも一緒に音楽作りましょう！どうぞ宜しくお願いいたします。

本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。

## ラフマニノフピアノ協奏曲第2番

## 練習ピアノニストとして

## 金田紗希里

今回のラフマニノフピアノ協奏曲で、本番までの練習でピアノを弾いていただいたのが、金田紗希里さんです。素晴らしいラフマニノフを弾いて下さった金田さんに、今回の練習での思いを語っていただきました。

ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番といえば、近年人気の高いフィギュアスケートの使用曲としてもよく用いられることから冒頭やフィナーレのテーマは世間的にも非常に有名で、その情熱的なフレーズは胸を熱くし、涙を誘う。ピアノニストを志す者なら一度はオーケストラと共演したい憧れの曲だ。

しかしながら今日では、超一流の演奏家以外はオーケストラに招聘されることはもちろん、代弾き(練習ピアノニスト)という役割としても、オーケストラをバックに演奏できる機会が非常に少ない。また、弦楽器や管楽器の演奏家がピアノ伴奏で協奏曲を演奏する光景はよく目にするが、ピアノ協奏曲の場合はピアノ伴奏であってもピアノが2台必要となり、楽器や練習場所の確保だけでも容易ではないの

である。そういった現状から「協奏曲」に飢えていた私は、代弾きのお話を頂いた時、ただやりたいという気持ちばかりが先行して即決で引き受けた。その時のメールを読み返してみても、7分後に返信している。後先考えず、すぐ行動に移せるところは私の長所としたい。勢いよく引き受けたもの、ふと、それまで何度も耳にはしてきたこの曲の楽譜を初めて目にした中学生の頃のことを思い出していた。

「冒頭の」あの有名なフレーズはピアノで弾くのではないのか。これをオーケストラが気持ち良く弾いている(であろう)間に、ピアノはこんなにたくさんで、しかも割り切れない数(1拍に9つの音符なんてどうやって弾くのか!)の音符を弾かなければならないのか!おまけに聴衆にはあまり聴こえないのに」という、少し耳を傾ければすぐ分かることに気付かされ仰天したのと同時に、何故だかちよっと損した気持ちになった。

「いつか絶対弾いてやるぞ!」という気持ちよりも、この曲を弾けるようになることはないだろうなあと、何とも情けない気持ちが勝ってしまった

ことをよく覚えている。強気で怖いもの知らずだったあの頃でさえ、自分には無理だと早くも諦めてしまったのだ。大人になり、ピアノの練習だけに時間を使える学生時代はとくに終わり、仕事をしながら練習時間を確保する難しさも身に染みて感じていた。短い小品ならともかく、相手は35分の大曲なのだ。

実は5年前にも岐響さんから代弾きの話を受け、同じようにラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を弾かせて頂いていた。だが、5年という歳月は見事に色々なことを忘れ去つてくれるのだ。様々な不安が重なり、二つ返事で引き受けた時の勢いはいとも簡単に失われてしまった。

たくさんの不安や、申し訳ないような逃げ出したような気持ちと闘いながら日々を過ごし、あつという間に練習日当日を迎えた。

岐響の練習は夜から。昼間に団内指揮者の陽治さんから、好きなように弾いてね、とメールを頂きその一言でかなり気持ちが軽くなっていった。減少した残りの不安と緊張を握りしめて練習場に足を踏み入れると、懐かしい雰囲気と不規則に混じり合ったたたくさんの楽器の音が不思議と気持ちを落ち着かせてくれた。和やかな雰囲気が始まった1時間のリハーサルは、

終わってみるとほんの数分ほどにしか感じられず、爽やかな疲労感と高揚感で満ちていた。



こんなにあくさんの楽器と演奏するにはオーケストラの中に入る他なく、発音のスピードや息遣いの違いを楽器の数だけ一気に感じ取ることができた、非常に密度の濃い1時間だった。

もはやこの経験は財産である。もしかしたら、それまでに感じていた不安な気持ちも全てひっそりかき消して、何物にも代え得ない財産なのかもしれない。前にも述べたように、この財産は誰もが手に入れられるものではない。貴重な経験をさせて頂けたことに感謝し、これからの長いピアノニスト人生、終わることなく挑戦と吸収を続けていきたい。

# 第44回アマチュアオーケストラフェスティバル

8月26日、28日、千葉県松戸市にて第44回アマチュアオーケストラフェスティバルが開催されました。岐阜県交響楽団からは3名が参加いたしました。

アマチュアオーケストラフェスティバルに参加して

ヴァイオリン 平田 邦男

アマチュアオーケストラフェスティバル千葉県大会に参加しました。私にとつては初めてです。オーケストラが三つ作られ、私が参加したのはCオケ、ブルックナーの6番です。参加した理由はブルックナーが好きだからです。中でも6番は私のとても好きな曲なのですが、ブルックナーの中でも知名度が高くない曲で、弾く機会があるとは思っていませんでした。

募集要項の応募者の人数の予備調査を見るとCオケ希望者が多く、中でも1stヴァイオリン（自分が希望したパート）が多かったので、参加申し込みをした後で、他のオーケストラまたは2ndヴァイオリンに回ってくれるよう連絡があるのではないかと

と思っていたのですが、何もなく希望通りのパートを弾くことが出来ました。

さて初回の合奏が始まります。全国から集まっている人たち、みんながともうまかつたらどうしようとても心配でしたが、必ずしもそうでもない人もいて少し安心です。そして初日のパート別懇親会、三つのオーケストラと一緒にし、1st、2ndを一緒にしたため、100人近い人数です。そして2日目、3日目の練習で次第に纏まってゆきます。

そして本番、管楽器がともよく鳴っています。大地が鳴動するようなブルックナーの音楽、ヴァイオリンに時々現れる美しいメロディ、澄んだ秋の日のように美しく寂しい第二章の第二主題、1stヴァイオリンが担当するとてもオイシイところです。そして壮大な終楽章のフィナーレ。3日間音楽漬（オーケストラ漬）で過ごせる幸せな時間を堪能しました。

この催し、自分の好きな曲を選んで弾けるともありがたいもので、また参加したいという思いもあります。全国の多くの団体から参加されて

いるのですが、お互い顔見知りの人結構多いようで、何回も参加している熱心な人が多い印象でした。

三つのオーケストラ、300人以上の演奏者に対し、運営も完璧に行われており大変だっただろうと思われれます。感謝です。

今回使用した松戸市文化会館はとても大きなホールで、大ホールと小ホールで二つのオーケストラのトウツテイ、二つのリハーサル室で他のオーケストラの分奏という割振りでした。あれだけ部屋がないホールだったらどうするのでしょうか。それによってオーケストラの数を变えるのでしょうか。

次回は刈谷での開催で、Aオケがガーシュウィンとグロウフェ、Bオケがラヴェルとドビュッシーです。近いのでみなさんも参加されてはいかがでしょうか。

最後に、フェスティバルの参加に対して岐響から助成金を戴きましたが、複雑な思いです。岐響のレベルをアップルできたとも思われたいし、人脈が出来たとも思われたいし、私の腕が上がって、岐響に貢献できるとも思われたいので、申し訳なく思っています。

全国アマチュアオーケストラフェスティバルに参加してSNSを通じて交流！

コントラバス 山田敦子

8月26日から28日まで第44回全国アマチュアオーケストラフェスティバル千葉県大会に参加しました。初参加は第36回の高松大会「プロコフィエフのロメオとジュリエット」であり、第37回福島こおりやま大会「春の祭典」、第40回清水大会「ボレロ、ラ・ヴァルス」、第42回甲府大会「英雄の生涯」と参加しています。

例年A、Bと2つのオーケストラが編成されるのですが、今回は3オーケストラが結成され、Aオケはシベリウス「エン・サガ」新田ユリ先生、BオケはR.シュトラウス「死と変容」、三原明人先生、Cオケはブルックナー「交響曲第6番」田久保裕一先生という内容で、私は今回Bオケに参加しました。

たった3日間、実質2日で演奏会を作り上げるというのも驚きですが、今回は主催幹事団体が事前練習を数回組み込んでいて関東近隣の方々が参加されたのもあり、初日練習時に意外と曲になっていたという印象でした。またコントラバスパート参加者で作成されたFACEBOOKのメッセージで事前練習の内容や楽譜

の注意事項がやり取りされリアルタイムで情報を得ることができたので、事前練習参加者と不参加者間のギャップがさほどなく初回練習に臨めたかと思えます。

肝心の演奏は今回トップサイドという緊張する場所（これまで後列での演奏ばかりだった）でしたが、周囲が通称「野獣」と呼ばれる方々に囲まれてつい私も野獣：とまではいきませんが、自分としては（本番いろいろありましたが）納得できる演奏ができました。「死と変容」という病と闘いながら死を目前とした人間の心理・身体状況が死を経て浄化されるという曲想は、医療従事者として患者に向き合う自分としては、死の今際の患者がせめて最後の浄化のテーマのように安らかであればと思いつながら演奏していました。

この演奏会では全国・海外からの参加者との直接的な交流（演奏＋飲み会）もさることながらSNSでの交流の大切さも知ることができました。コントラバスSNSでの情報のやりとりは演奏にとどまらず：「コントラバスパートTシャツづくり」や地方限定「○○づくり」ビールを持ち寄る、通称「野獣部屋（単なる飲み会部屋）」のホテル予約などなど（そちらがメイン?!）多岐にわたるやりと

りがあり、このフェスティバル終了後も全国のコントラバス奏者の交流の場（すでに年末忘年会は名古屋で開催決定！）として機能しています。コントラバスTシャツのデザインもコントラバス奏者自ら作成し大抵のコントラバス奏者が連日着ていたのとなり目立っていたと思います。「コントラ」ファゴット奏者や「バス」クラリネット奏者からも購入・次回購入予約も入り、「バス」勢力のますますの増大が期待される現状です。

来年は愛知県刈谷市での開催です。ご興味のある方はぜひ参加をお勧めします。



### 運搬とチューニングへのこだわり コントラバス 須原貴志

第44回全国アマチュアオーケストラフェスティバル千葉県大会に参加してまいりました。開催の概要については、おそらくは他の参加者の文と重複するものと思われるので割愛させていただきます。

通常、アマチュアオーケストラフェスティバル（JAO）の成人オケはA、B二つのオーケストラにより構成されますが、今年もA、B、Cの三つのオーケストラの受け皿が用意され、次第に狭き門となり落選することも多くなってきたコントラバスも参加希望者全員が当選することが出来たようです。これに関連するのですが：当団においてはコントラバスは全員個人持ちの楽器を所有し自家用車をもっているのがコントラバスは個人が運搬するのが当たり前のようになっていますが、譜面やバス椅子も運搬すると合計で20kg近く達することがあり、東部コミユニティセンターの駐車場から練習場に運ぶだけで肩ずれを来す場合もあります。腰も痛めるものも多いです。そのような訳で、本当は弓だけをもって移動し楽器本体は現場に用意されている：レッスンでも先生のところの楽

器を使う：という前提で構成されている演奏システムなのです（かつては当団でも車で楽器を運ぶものは運搬を免除されていたものです）。それが故に私どもの弓ケースには取っ手とか、肩紐といった他の弦楽器にはみられない構造がついているものが多いのです。

勿論、楽器によって少しづつ造りが違っていて音程が違ってきますので、できれば自分の楽器で弾きたいのですが、全国から演奏者が集うJAOでは楽器を自分で持参するか、借りるかの選択肢が与えられます。一方、主催する側からすれば楽器を用意することはとても大変なこととして、そうなりますと応募者としては：もしかしたら楽器持参者が優先的に当選するのでは：という気持ちになります。そのような恐怖感から、今回、千葉で開催されるにもかかわらず、楽器持参の方に○をつけてしまいました。蓋を開けてみたら3つもオケが用意されていてショックでしたが、今更借りるとも言えません。楽器ケースも、これまた弦楽器の中では唯一ソフトケース（ハードケースもあり）ですがウイーンでご覧になった方も見えますと思いますが、到底人ひとりでは運べません。人間が入れるので推理小説に使われたりしま

す)であり、満員電車に乗ると楽器は破損しますし、雨で濡れると、弦楽器なのに水が染み込んでくるという恐るべき事態となります。新幹線まではよいのですが、それから先の鉄道利用は危険です。

そこで同乗者を募り、同乗者の叱咤激励(殴られながら)を受けながら睡魔と闘い、なんとか車で松戸までたどり着きました。

さて、私が参加したのは三原明人先生指揮で水島愛子先生をコンサートミストレスにお招きしてのBオケ、Rシユトラウスの「死と変容」でした。Bオケのみが對抗配置が指示されたので、運用上の理由もあり演奏順はBオケ↓Aオケ↓Cオケとなりました。

Bオケでストレンジだったのは、開始時のチューニング方法でした。オーボエからコンミスが音を拾う……ここまでは同じなのですが、次にコントラバスが単独で音を合せる、次にチェロ単独。次が管楽器、そして残りの弦楽器……という順だったのです。

また、コントラバスは4度音程を合せるのに隣り合った低い方の弦の4倍音と高い方の弦の3倍音を合せるということをするのですが、このフラジオレット(ハーモニクス)が禁止され、実音合わせになりました。4度

でも完全音程ですから完全5度音程のバイオリンのようにダブルで弾くと音が調和して一つに聞こえるはずですが、実際やってみるとどうもういうばかりでわけわかりません。やはり一音一音チューナーであわせるしかありません。しかし、これはなかなか理にかなっていないと感じました。弦長の長い楽器は……ハープでもそうですが、湿度と温度に敏感で音が狂いやすく、ハープやコントラバスが演奏会直前に舞台上でチューニングをしている姿を目撃することは多いと思います。

さらに、その強大な張力により、一つの弦の張力を変えると……本当は他の弦楽器でもそうなのですが、より強い形で他の弦のピッチに影響を与えます。一つの弦を高くすると他が低くなる。逆に低くすると他の弦が高くなります。よってチューナーを用いた場合でも、酷いときは二巡半くらいしなければなりません。時間がかかるのです。よって、練習でも全体チューニングの前に密かにチューニングしています。またフラジオレットでチューニングする場合は音を聞いてペグを回してのActionになり、さらに試行錯誤になるのでますます時間がかかります。

時々、全体チューニングの前に静

かにして心のチューニングをするという取り組みがなされますが、それは良いことだと思えます。しかしそれをやるなら、棒が下りる前にコントラバスのチューニングが完了するまで待つていただきたいのです。数分かかるかもしれませんが、それが嫌なら、実利を重んじコントラバスだけは心のチューニングは避けていただきたいなど感じます。音は出ているも心は皆さまと共にあるつもりです。

フラジオレット禁止が理にかなっていないと感じるもう一つの理由は、インハーモニシティという現象です。これは弦が太い楽器にあらわれる特有の現象でして、コントラバス、そしてピアノの低音部分に現れます。弦が太いと、弦を止めている節の部分よりどうしても振動しない部分が出てきてしまうのです。この部分は一定の長さです。そうなりますと、振動数というのは波長の比ですから、波長が短くなると、どうしても高く発音してしまうのです。3倍音より4倍音の方が高いです。結果的にフラジオレットを使うと高い弦は低く、低い弦は高くチューニングされてしまいます。

勿論我々の左手の方が誤差が大きいわけでして、インハーモニシティなドビブラートの振幅にかくれてしま

いますが、近年、古楽器演奏においてノンビブラートが指定されることもあり、大いにプレッシャーを感じます。古楽器でなくても、オネゲルプンクトと言われる部分はノンビブラートです、オルガンの左足のペダルになった気持ちでがんばりますが……厳しいです。知らないうちにビブラートかけてしまいます……。

話がそれましたが、上記のような訳で、今回のBオケのチューニング方法は理にかなっていると感じました。このとおりにやるといっはいいささかどうかと思いますが、一つの情報として皆さまの心の片隅に置いていただければ幸いです。



## 今年の演奏活動より ～実演芸術アウトリーチ事業～

この事業は、岐阜県内の実演芸術文化団体が、県内の学校教育機関や文化施設、福祉施設へ出前公演するもので、岐阜県交響楽団は今年、7月3日に郡上市立大和北小学校、7月10日に海津市立西江小学校にてアウトリーチ公演を行いました。児童さんたちによる指揮者コーナーの他、オーケストラ伴奏による合唱では、元気いっぱいの歌声に私たちも感動させられました。

両校の児童さんたちから、たくさんの感想をいただきました。そのどれもが、ほとんどの子どもたちが生のオーケストラを初めて体験したことへの驚きや感激に満ちていて、私たちがこの事業に参加していくことの意味を強く感じさせてくれるものでした。その一部をご紹介します。

### 郡上市立大和北小学校のみなさん

- ・いろいろな楽器で紹介の曲がおもしろかったし、迫力のある演奏にすごいなーと思った
- ・みんながリズムにのって楽しそうに演奏していて聞いているほうもリズムにのって楽しく聞けたのでよかった
- ・楽器の音の重なりと迫力がすごかったし、楽器の説明がわかりやすく楽しくて楽器のことがわかってすごくよかった
- ・減多にない体験だったし、どの曲も難しそうで、でも上手に演奏していてすごく迫力があってまたききたい
- ・本物のオーケストラに実際に演奏してもらう機会はなかなかないのでとてもうれしかった、とても迫力があってすばしかったのでまた聞きたい、ドラムと指揮者がかっこいいと思った、古いホルンを使っていたので古くても大事にしていると思った
- ・息の合った演奏でひとつひとつ違う楽器の音があるから一つの楽器でひく演奏よりも迫力も全然違ってさすが楽団の人たちだなと思った、音楽の授業をもっと楽しもうと思った

### 海津市立西江小学校のみなさん

- ・とっても上手だったよ、あとしきのひともじょうずだったよ
- ・トランペットやヴァイオリンの音がとてもきれいでびっくりしたし、テレビで見るよりもコントラバスがとても大きかったので、迫力があっておもしろかったです
- ・いろんながっきでひとつのうたになることがびっくりしました
- ・いろいろながっきがあっておいところから西江小までできてくれてありがとうございます、またきてください
- ・保護者：とても楽しく鑑賞させてもらいました、子どもたちの笑い声もたくさん聞け、歌声とのハーモニーもすてきでした、またぜひ来校していただきたいです。



▲西江小学校での様子